

松浦市文化財調査報告書 第11集

松浦市内遺跡確認調査（6）

2021

長崎県松浦市教育委員会

松浦市文化財調査報告書 第11集

松浦市内遺跡確認調査(6)



2021

長崎県松浦市教育委員会

発刊にあたって

本書は、平成30年度から令和2年度にかけて実施した、土地開発等に伴う松浦市内に所在する遺跡の確認・試掘調査の成果を収録したものです。近年、松浦市では土地開発等に伴う埋蔵文化財の発掘届出が増加傾向にあります。埋蔵文化財は、郷土の成り立ちを理解するうえで欠くことのできないものであり、国民共有の財産です。松浦市教育委員会では、これら貴重な文化財を適切に保存・活用するため、周知、普及・啓発に努めているところで、本報告書が市民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に際し、ご協力いただいた事業者ならびに土地所有者の皆様、また発掘作業に携わっていただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和3年3月31日

長崎県松浦市教育委員会

教育長 今 西 誠 司

例 言

1. 本書は、平成 30 年度から令和 2 年度にかけて実施した松浦市内の遺跡の確認・試掘調査の報告と平成 14 年度の神崎港改修工事に伴う鷹島海底遺跡緊急調査で出土した遺物のうち、未報告であった木製品の報告である。
2. 調査は、国庫補助及び県費補助を受けて松浦市教育委員会文化財課が主体となって実施した。
3. 平成 31 年度（令和元年度）の鷹島海底遺跡の確認調査は、國富株式会社長崎営業所に業務委託した。
4. 調査及び本報告書作成にあたっては、長崎県教育委員会学芸文化課をはじめ、多くの方にご指導ご協力を賜った。
5. 調査は、松浦市教育委員会文化財課早田晴樹があたった。
6. 出土した遺物の実測・製図の作成は早田があたった。鷹島海底遺跡出土木製品の実測は株式会社大信技術開発・株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、製図は整理作業員の協力を得て早田が行った。
7. 本書の執筆、編集、遺物写真撮影は早田が行った。
8. 本書にかかわる出土遺物は、松浦市立埋蔵文化財センター（松浦市鷹島町神崎免 146 番地）で収蔵・保管している。

凡 例

1. 本書に用いたレベル数値は絶対海拔高による。
2. 本書で用いている方位は磁北である。
3. 本書で使用する土層及び遺物の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局並びに財団法人日本色彩研究所監修の『新版標準土色帖』による。
4. 遺物番号は全て通し番号とし、本文及び挿図、図版番号とも一致する。
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は不統一である。縮尺はそれぞれの挿図内に提示してある。
6. 貿易陶磁器の分類については、『大宰府条坊跡XV』（太宰府市教育委員会 2000）を参考にした。
7. 本文中で表記する遺構の略記号として溝状遺構（SD）、土坑（SK）、ピット（SP）を使用した。

本文目次

第Ⅰ章	はじめに	1～4
	1. 調査に至る経緯	1
	2. 調査の組織	3～4
第Ⅱ章	地理的・歴史的環境	5～7
	1. 地理的環境	5
	2. 歴史的環境	5～7
第Ⅲ章	平成30年度確認・試掘調査の概要	9～14
	1. 大堤遺跡第2次調査	9～10
	2. 青島遺跡第4次調査	10～12
	3. 寺ノ尾A遺跡第2次調査	12～14
第Ⅳ章	平成31年度（令和元年度）確認・試掘調査の概要	15～16
	1. 鷹島海底遺跡	15～16
第Ⅴ章	令和2年度確認・試掘調査の概要	17～26
	1. 栢ノ木遺跡第30次調査	17～19
	2. 中野遺跡第1次調査	20～21
	3. 久保園遺跡第9次調査	22～23
第Ⅵ章	鷹島海底遺跡出土木製品の再調査について	27～35
	1. はじめに	27
	2. おわりに	34

挿 図 目 次

第1図	平成30年度から令和2年度 所収遺跡位置図 (1/200,000) …… 1	第21図	30次調査出土遺物 (15のみ1/2、ほかは1/3) …… 19
第2図	松浦市内のおもな遺跡位置図 (1/150,000) …… 7	第22図	中野遺跡範囲及び調査箇所位置図 (1/10,000) …… 20
第3図	大堤遺跡範囲及び調査箇所位置図 (1/10,000) …… 9	第23図	調査区位置図 (1/1,000) …… 20
第4図	調査区位置図 (1/400) …… 9	第24図	T1平面図及び遺構土層断面図 (1/40) …… 20
第5図	T1平面図及びSK1土層断面図 (1/40) …… 10	第25図	T2平面図及び遺構土層断面図 (1/40) …… 21
第6図	T1北壁土層断面図 (1/40) …… 10	第26図	1次調査土層断面図 (1/40) …… 21
第7図	青島遺跡範囲及び調査箇所位置図 (1/10,000) …… 10	第27図	1次調査出土遺物 (1/2) …… 21
第8図	4次調査土層断面図 (1/40) …… 11	第28図	久保園遺跡範囲及び調査箇所位置図 (1/10,000) …… 22
第9図	4次調査出土遺物 (1/2) …… 12	第29図	調査区位置図 (1/600) …… 22
第10図	寺ノ尾A遺跡範囲及び調査箇所位置図 (1/10,000) …… 12	第30図	9次調査土層断面図 (1/40) …… 23
第11図	調査区位置図 (1/1,200) …… 13	第31図	9次調査出土遺物 (1/3) …… 23
第12図	T1平面図 (1/40) 及びSP土層断面図 (1/20) …… 13	第32図	平成14年度緊急調査出土木製品① (1/8) …… 28
第13図	2次調査土層断面図 (1/40) …… 13	第33図	平成14年度緊急調査出土木製品② (27、28のみ1/4、他は1/8) …… 29
第14図	鷹島海底遺跡範囲及び調査箇所位置図 (1/80,000) …… 15	第34図	平成14年度緊急調査出土木製品③ (33のみ1/8、他は1/4) …… 30
第15図	海底ケーブル位置図及び周辺海底 地形図 …… 15	第35図	平成14年度緊急調査出土木製品④ (41のみ1/8、他は1/4) …… 31
第16図	栢ノ木遺跡範囲及び調査箇所位置図 (1/10,000) …… 17	第36図	平成14年度緊急調査出土木製品⑤ (45、47のみ1/8、他は1/4) …… 32
第17図	調査区位置図 (1/600) …… 17	第37図	平成14年度緊急調査出土木製品⑥ (48、49、51は1/8、他は1/4) …… 33
第18図	T1平面図及びSP土層断面図 (1/40) …… 18		
第19図	T2平面図及びSP土層断面図 (1/40) …… 18		
第20図	30次調査土層断面図 (1/40) …… 18		

目 次

表1	平成30年度から令和2年度の法第93・94条関係届出等一覧表	2
表2	松浦市内のおもな遺跡一覧表	7
表3	平成30年度確認調査出土遺物観察表	14
表4	平成30年度確認調査出土遺物一覧表	14
表5	平成30年度確認調査検出遺構一覧表	14
表6	令和2年度確認調査出土遺物観察表	24
表7	令和2年度確認調査出土遺物一覧表	25
表8	令和2年度確認調査検出遺構一覧表	26
表9	平成14年度緊急調査出土木製品一覧表	35

図 版 目 次

図版1	大堤遺跡2次調査箇所遠景 大堤遺跡2次T1完掘状況(南側から) 大堤遺跡2次T1北壁土層断面 青島遺跡4次T1完掘状況(東側から) 青島遺跡4次T1西壁土層断面 青島遺跡4次T2完掘状況(東側から) 青島遺跡4次T2西壁土層断面 青島遺跡4次T3完掘状況(西側から)	図版3	青島遺跡4次T7西壁土層断面 青島遺跡4次T8完掘状況(東側から) 青島遺跡4次T8西壁土層断面 青島遺跡4次T9完掘状況(東側から) 青島遺跡4次T9西壁土層断面 青島遺跡4次T10完掘状況(東側から) 青島遺跡4次T10西壁土層断面
図版2	青島遺跡4次T3東壁土層断面 青島遺跡4次T4完掘状況(南側から) 青島遺跡4次T4北壁土層断面 青島遺跡4次T5完掘状況(東側から) 青島遺跡4次T5西壁土層断面 青島遺跡4次T6完掘状況(西側から) 青島遺跡4次T6東壁土層断面 青島遺跡4次T7完掘状況(東側から)	図版4	寺ノ尾A遺跡2次T1遺構検出状況 (東側から) 寺ノ尾A遺跡2次T1完掘状況 (西側から) 寺ノ尾A遺跡2次T1東壁土層断面 寺ノ尾A遺跡2次T2完掘状況 (西側から) 寺ノ尾A遺跡2次T2東壁土層断面
		図版5	鷹島南ヶ崎(調査船上より) 鷹島海底遺跡海底ケーブル5m地点 鷹島海底遺跡海底ケーブル15m地点 鷹島海底遺跡海底ケーブル25m地点 鷹島海底遺跡海底ケーブル200m地点 鷹島海底遺跡潜水目視調査状況① 鷹島海底遺跡潜水目視調査状況② 鷹島海底遺跡潜水目視調査状況③

図版 6 栢ノ木遺跡 30 次 T 1 遺構検出状況
(西側から)
栢ノ木遺跡 30 次 T 1 完掘状況
(西側から)
栢ノ木遺跡 30 次 T 1 北壁土層断面
栢ノ木遺跡 30 次 T 2 遺構検出状況
(西側から)
栢ノ木遺跡 30 次 T 2 完掘状況
(北側から)
栢ノ木遺跡 30 次 T 2 西壁土層断面
中野遺跡 1 次 T 1 遺構検出状況
(西側から)
中野遺跡 1 次 T 1 完掘状況
(西側から)

図版 7 中野遺跡 1 次 T 1 南壁土層断面
中野遺跡 1 次 T 2 遺構検出状況
(西側から)
中野遺跡 1 次 T 2 S D 内礫検出状況
中野遺跡 1 次 T 2 完掘状況(西側から)
中野遺跡 1 次 T 2 北壁土層断面
久保園遺跡 9 次 T 1 完掘状況
(南側から)
久保園遺跡 9 次 T 2 完掘状況
(南側から)
久保園遺跡 9 次 T 2 北壁土層断面
図版 8 平成 30 年度～令和 2 年度確認調査出
土遺物①
平成 30 年度～令和 2 年度確認調査出
土遺物②

第Ⅰ章 はじめに

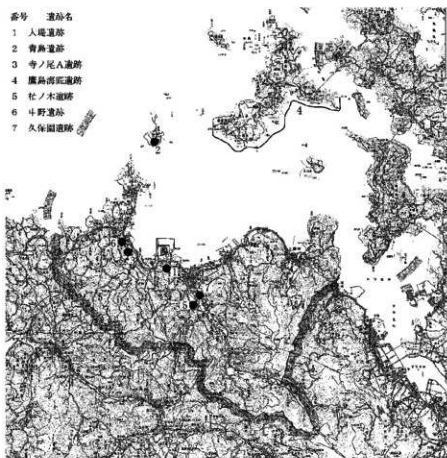
1. 調査に至る経緯（第1図 表1）

松浦市における埋蔵文化財保護行政は長崎県教育委員会の指導のもと、文化財保護法に基づき立会調査や確認調査などを実施している。

平成30年度の法第93条・94条関係届出等の件数は19件で、このうち国庫補助・県費補助事業（以下、補助事業という）関係で実施した確認調査件数は6遺跡8件である。ただし、一町田遺跡及び段ノ上遺跡については、平成31年度（令和元年度）に本調査を実施し、報告書を刊行（松浦市文化財調査報告書第9集）している。第9集において確認調査も併せて報告しているため、一町田遺跡、段ノ上遺跡についてはそちらを参照されたい。また、中ノ瀬遺跡については、本調査実施予定であるため、そちらであわせて報告することとしたい。

平成31年度（令和元年度）の法第93条・94条関係届出等の件数は31件で、このうち補助事業関係で実施した確認調査は、鷹島海底遺跡の1件のみである。

令和2年度の法第93条・94条関係届出等の件数は17件で、このうち補助事業関係で実施した確認調査件数は3件である。



第1図 平成30年度から令和2年度 所収遺跡位置図（1/200,000）

年度	選挙区	候補者	得票数	得票率	当落	所属政党	所属会派
30	中ノ原選挙区	今堀町長	70-112カ	枕設置	松本市	無所属	無所属
		アムダ高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
31	中ノ原選挙区	今堀町長	70-112カ	枕設置	松本市	無所属	無所属
		アムダ高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属
		松田高田	岡田町長157-2	枕設置	松本市	無所属	無所属

表1 平成30年度から令和2年度の法第93・94条関係届出等一覧表

2. 調査の組織（敬省略）

平成30年度

調 査 主 体	松浦市教育委員会事務局
教 育 長	今西 誠司
教育次長	宮島 哲郎
	石黒 修子

文 化 財 課	課 長	内野 義
	課長補佐	坂本 秀樹
	係 長	梶川 誠基
	学 芸 員	合澤 哲郎
	主 事	浦田 宗平
	学 芸 員	早田 晴樹

平成31年度（令和元年度）

調 査 主 体	松浦市教育委員会事務局
教 育 長	今西 誠司
教育次長	宮島 哲郎
	石黒 修子

文 化 財 課	課 長	内野 義
	課長補佐	坂本 秀樹
	係 長	梶川 誠基
	学 芸 員	合澤 哲郎
	学 芸 員	早田 晴樹
	学 芸 員	安木 由美

令和2年度

調 査 主 体	松浦市教育員会事務局
教 育 長	今西 誠司
教育次長	宮島 哲郎
	石黒 修子

文 化 財 課	課 長	内 野 義
	課長補佐	坂 本 秀樹
	係 長	梶 川 誠基
	学 芸 員	合 澤 哲郎
	学 芸 員	早 田 晴樹
	学 芸 員	安 木 由美

整 理 補 助 員 富永美香・山形百合

調 査 参 加 者 井出義徳・川下洋子・坂本秀則・竹山勝治・谷川節子・豊村章一・中川ヨシ子・羽戸由美子・福浦光男・前田義孝・松尾茂行・毛利重信・山下洋子・山下政博

調 査 協 力 者 株式会社松浦養殖・崎村政輝・白石光博・中野始・永島和明(調査船船長)・羽戸健二・濱野孫広・福岡満夫・松尾茂行・松崎康夫・松本富夫・宮本初義・山口ゆかり・山下仁美

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

松浦市は長崎県本土北端に位置する北松浦半島の本土部と、その沖に浮かぶ福島・鷹島・黒島・青島・飛島などの島々から構成される。平成18年1月1日に旧松浦市・北松浦郡福島町・北松浦郡鷹島町が合併し誕生した市である。

北松浦半島の本土部は南に石盛山や高法知岳、白岳などの山脈が迫っており、北に閉鎖性の高い内湾である伊万里湾が存在する。その伊万里湾に前述の福島・鷹島などの島々は浮かんでいる。これら島々は河川に乏しいものの、市本土部には志佐川、今福川などの河川が流れており、いずれも北流し伊万里湾に注いでいる。平地は河川の下流域に僅かに発達するのみである。また、上述の高法知岳、白岳などの山脈が市境となっており、国見山を最高峰とする国見山系が佐賀県との県境となっている。松浦市の西は長崎県平戸市と、南は長崎県佐世保市と接し、東は佐賀県伊万里市及び唐津市と接している。なお、福島及び鷹島には橋が架かっており、それぞれ佐賀県の伊万里市、唐津市と陸路で往来が可能である。

地質は溶岩台地・新第三紀層・沖積層・洪積層と大きく4つに分類される。市域は新第三紀層を基盤とし、その上に北松浦玄武岩類と呼ばれる玄武岩の溶岩台地が広がっている。新第三紀層（佐世保層群）は砂岩や泥岩の互層からなっており、多くの薄炭層と凝灰岩を間に挟んでいる。この佐世保層群は厚いところでは層厚1,200mにも及ぶ。北松浦半島一帯は北松炭田として昭和30（1950）年代に栄えたが、炭田はこの薄炭層を利用していた。この薄炭層を含む新第三紀層と砂礫層は互層からなっており、この地域一帯は上位の玄武岩と作用して起こる「北松型地すべり」と呼ばれる地すべりの多発地帯となっている。沖積層は志佐川流域に発達するが、今福川流域においても確認できる。洪積層（段丘）は志佐川流域において確認される。一方、福島、鷹島などの島々は新第三紀層と玄武岩に分類されている。

2. 歴史的環境

ここでは市内に分布する主な遺跡について時代ごとに述べることにする。

本市において最も古い人類の活動の痕跡は旧石器時代まで遡る。市域西部に位置する星鹿半島は黒曜石の原産地であり、隣接する佐賀県伊万里市には九州を代表する黒曜石原産地である腰岳が存在している。石材入手が容易であるため、北松地域一帯には多くの旧石器時代、縄文時代の遺跡が存在している。松浦市内において旧石器時代の遺跡数は46カ所確認されており、市内では特に黒曜石原産地である星鹿半島の台地上に遺跡が集中して見られる。また、市域西部御厨町に位置する田口高野遺跡ではA・T火山灰が確認され、台形石器やナイフ形石器が出土している。

縄文時代では94カ所の遺跡が確認されている。前述の田口高野遺跡では鬼界アカホヤ火山灰が確認されている。田口高野遺跡にほど近い下谷遺跡では21基のドングリ貯蔵穴や土坑が確認され

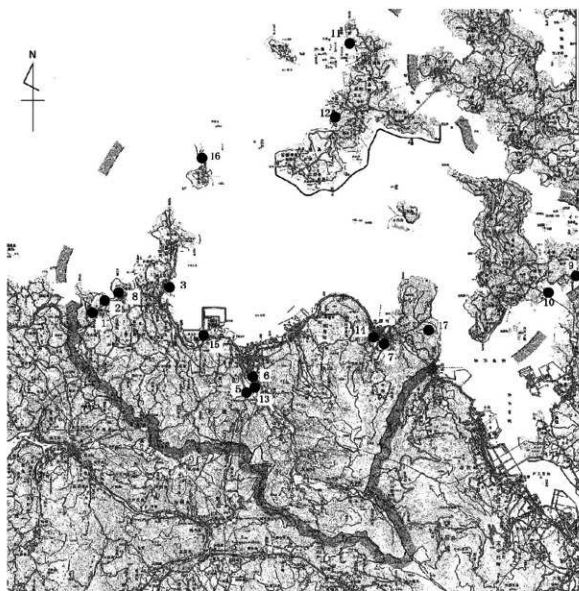
ており、鈴桶型刃器技法により産出された腰岳産黒曜石製品が多数確認されている。星鹿半島東岸に位置する姫神社遺跡は昭和41年に日米合同調査が行われており、前期の甕式土器・曾畑式土器や石鏃・石槍・石斧・石匙などが報告されている。また、鷹島海底遺跡では水深約25mの深さから早期前葉の押型文土器が確認されており、縄文時代における海水位の変化あるいは陸地の沈降現象について注目される。

弥生時代以降になると、これまでの旧石器・縄文時代に比べ確認できる遺跡は限られる。弥生時代の遺跡としては、志佐川流域の柗ノ木遺跡において前期後半頃の甕棺墓と石棺墓の墓域が形成されている。石棺墓からは副葬品として内行花文鏡やガラス小玉などが出土している。また、志佐川を挟んで対岸には久保園遺跡があり、中期の甕棺墓が確認されている。市域東部に位置する今福川流域の中ノ瀬遺跡では中期の堅穴建物跡が確認されている。今福川を望む丘陵上に集落が営まれていたものと思われる。

古墳時代になると、市本土部に小嶋古墳群、福島に横島古墳や小島古墳、鷹島に薫崎鬼塚古墳、宝ヶ峯1号～3号墳が築造される。このうち、発掘調査が実施されたのは小嶋1号墳、宝ヶ峯古墳群のみである。いずれも円墳であり、横穴式石室が用いられている。後期から終末期に位置付けられる。他に宮ノ下り遺跡では4世紀後半から5世紀代の堅穴建物跡、柗ノ木遺跡では6世紀後半、今福遺跡では4世紀初頭及び6世紀後半の土師器や須恵器が出土している。

古代については明確な遺構が確認されていないため判然としませんが、宮ノ下り遺跡、久保園遺跡、今福遺跡より緑釉陶器碗や越州窯系青磁碗が出土している。

中世になると、嵯窪田遺跡において12世紀ごろの墓域や掘立柱建物跡が、中ノ瀬遺跡では木棺墓や土壇墓が確認されている。また今福川を挟んで対岸に位置する今福遺跡では11世紀後半から14世紀中ごろの土師器や貿易陶磁器などが、星鹿半島の先端より1.2km沖合の青島に所在する一町田遺跡では、11世紀後半から12世紀後半にかけての貿易陶磁器が出土している。山城跡としては、県史跡である松浦党梶谷城跡などがある。遺物は15世紀後半から17世紀前半の陶磁器類が確認されている。鷹島海底遺跡は鷹島南岸に位置している。日本史上重要な事件である蒙古襲来に係る古戦場跡である。これまで40年にわたる水中考古学手法による発掘調査が行われており、『蒙古襲来絵詞』に描かれる「てつほう」や刀剣、矢束、鉄製冑などの武器・武具類、褐釉陶器や青磁碗などの陶磁器類、礎石や船体の一部と考えられる木材などが出土している。平成23年には琉球大学の研究チームが水深20～25mの地点で「1号沈没船」を、平成27年には水深15mの地点で「2号沈没船」を確認している。これらの成果を受け、従来、文献・絵画によってしか知られなかった蒙古襲来の様相を具体的に明らかにしたとして、平成24年3月27日に鷹島海底遺跡内の384,073.61㎡が鷹島神崎遺跡として、海底遺跡では国内初となる国史跡に指定されている。平成26年3月には『国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書』を策定している。



第2図 松浦市内のおもな遺跡位置図 (1/150,000)

番号	遺跡名	時代	種別	立地	所在地
1	田口高野遺跡	旧石器・縄文	遺物包含地	台地	御厨町西田免
2	下谷遺跡	縄文時代	遺物包含地	台地	御厨町西田免
3	姫神社遺跡	縄文時代	遺物包含地	平地	星籠町北久保免
4	鷹島海底遺跡	縄文・中世	遺物包含地	海底	鷹島町南岸地先水田
5	稲ノ木遺跡	縄文・弥生・中世	遺物包含地・墳墓	台地	志佐町稲木免
6	久保原遺跡	縄文・弥生・古墳	遺物包含地	平野	志佐町里免・高野免
7	中ノ権遺跡	縄文・弥生・中世	遺物包含地	平野	今福町瀬免
8	小島古墳群	古墳時代	古墳	平野	御厨町大崎免
9	鷹島古墳	古墳時代	古墳	台地	鷹島町真内瀬免
10	小島古墳	古墳時代	古墳	坪	鷹島町瀬免
11	鷹島城跡古墳	古墳時代	古墳	台地	鷹島町阿部浦免
12	宝ヶ家古墳群	古墳時代	古墳	台地	鷹島町中道免
13	宮ノ下遺跡	縄文・古墳・中世	集落・墳墓	平野	志佐町高野免
14	今福遺跡	縄文・弥生・古墳	遺物包含地	平野	今福町広坂免
15	松増田遺跡	旧石器・縄文・中世	遺物包含地	丘陵	志佐町白底免
16	一町田遺跡	縄文・弥生・中世	遺物包含地	砂丘	星籠町青島免
17	松浦覚観谷城跡	中世	城跡跡	丘陵	今福町東免

表2 松浦市内のおもな遺跡一覧表 (番号は地図中の数字に対応)

第三章 平成30年度確認・試掘調査の概要

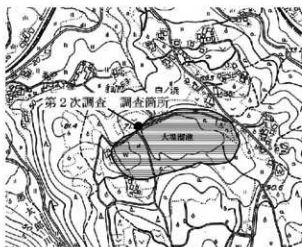
平成30年度に確認調査を実施した大堤遺跡、青島遺跡、寺ノ尾A遺跡について概説する。なお、平成30年度は他に一町田遺跡、段ノ上遺跡、中ノ瀬遺跡の確認調査を実施しているが、一町田遺跡、段ノ上遺跡については、令和2年2月刊行の第9集『一町田遺跡・段ノ上遺跡』において報告している。中ノ瀬遺跡については、本調査実施予定であるため、そこであわせて報告することとしたい。

1. 大堤遺跡第2次調査（第3図～第6図）

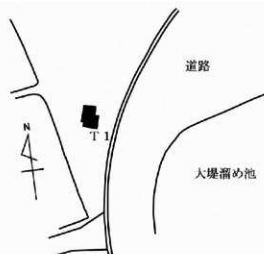
立 地 大堤遺跡は、松浦市の中心部より西へ約2kmの地点、志佐町白浜免の大堤溜池の周辺にあり、標高約73mの丘陵上に所在する（第3図）。本遺跡の北側約700mの地点には、大量の貿易陶磁器が出土した楼階田遺跡が位置している。

調 査 第1次調査は、平成16年度に農道拡幅工事に伴い実施されており、近世に属すると考えられる埋甕や土坑、ピットが確認されている。第2次調査は、5月22日付けにて、携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、7月10日から7月12日にかけて実施した。工事予定地内に任意で2m×1.5mの調査区を設定し、人力により掘り下げを行ったが、調査区端にて遺構を検出したため拡張し、最終的に調査面積は4.3㎡となった。

検出遺構 表土を剥がしたところ、調査区南端、Ⅱ層上面にて土坑（SK1）を検出した（第5図）。そのため、調査区を南側に向けて拡張している。SK1の覆土は単層である。長軸約120cm、短軸約95cm、深さ約20cmを測る。表土直下から掘り込まれていることから、近世の遺構であるものと判断した。調

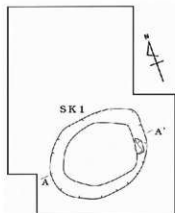


第3図 大堤遺跡範囲及び調査箇所位置図
(1/10,000)



第4図 調査区位置図（1/400）

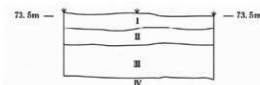
査区自体の層序は、表土以下が玄武岩風化層の褐色土であった（第6図）。



SK1 土層説明

単層。10YR 4/6 褐色土。炭化粒を含む。

第5図 T1平面図及びSK1土層断面図（1/40）



土層説明

I：表土。現代の耕作土。10YR 3/3 暗褐色土。

II：10YR 4/6 褐色土。

III：10YR 4/6 褐色土。II層よりやや明るい。

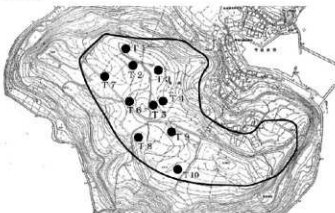
IV：地山。7.5YR 4/6 褐色土。

第6図 T1北壁土層断面図（1/40）

出土遺物 遺物は、表土及びII層中から近世陶磁器や黒曜石剥片、屑片が出土している。また、SK1からは黒曜石剥片、屑片が出土した。いずれも小片ばかりであり、図示可能なものはなかった。

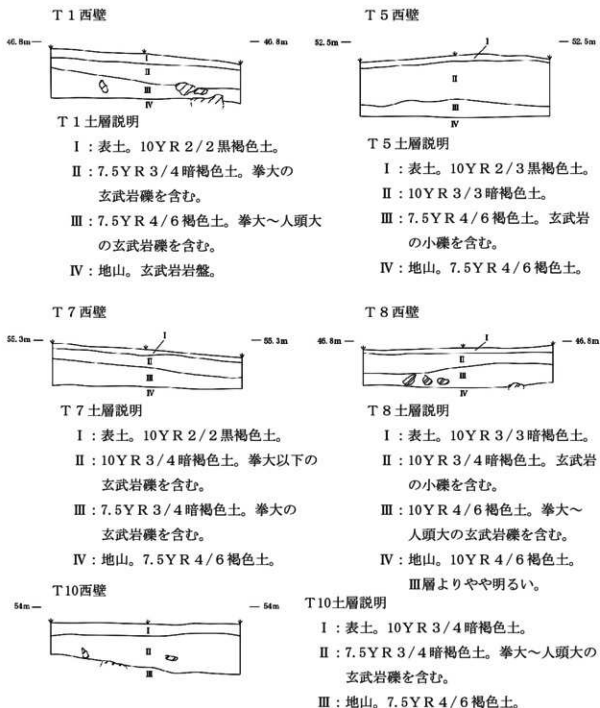
2. 青島遺跡第4次調査（第7図～第9図）

立地 本遺跡の所在する青島は、松浦市西部の星鹿半島先端、津崎鼻より約1.2km沖合に浮かぶ離島である。島内には3つの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在するが、中でも青島遺跡は島南部の標高約55m前後の台地上に位置している。これまでに平成9年度、平成24年度、平成28年度に確認調査が実施されている。これまでの調査



第7図 青島遺跡範囲及び調査箇所位置図（1/10,000）

で遺構及び遺物包含層は確認されていないが、表採資料としてナイフ形石器、台形石器、黒曜石製石鏃や玉縁口縁白磁碗、李朝陶器碗などが採集されている。



第8図 4次調査土層断面図 (1/40)

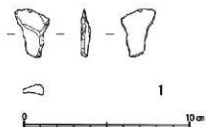
調 査 小形風力発電設備設置工事に伴い、確認調査を実施した。この小形風力発電設備設置工事は青島島内全域に及び、青島遺跡10カ所、一町田遺跡2カ所、段ノ上遺跡3カ所の3遺跡、計15カ所の確認調査を実施することとなった。一町田遺跡、段ノ上遺跡については遺構及び遺物包含層を確認したため、本調査を平成31年度（令和元年度）に実施し、令和2年2月に報告書を刊行した。

青島遺跡の確認調査は11月12日から11月18日まで実施した。工事予定地に2m×2mの調査区を10カ所設定し（第7図）、人力による掘削を行った。調査面積は計40㎡である。

検出遺構 いずれの調査区からも遺構及び遺物包含層は確認できなかった。土層の堆積状況は基本的に同じであり、表土（現代の耕作土）を剥がすと、下層は玄武岩の風化層であった。

出土遺物 調査区より出土した遺物は、黒曜石剥片、屑片や近世陶磁器などである。図示できたのは1点のみであった。

1は表採品の台形石器である。全体的に表面が摩滅しており、リング、フィッシャー等は確認できない。全長2.9cmを測る。

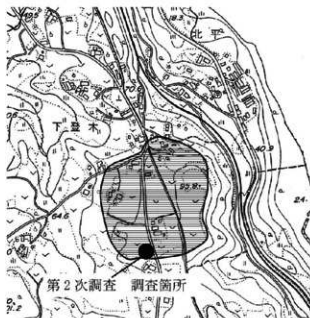


第9図 4次調査出土遺物（1/2）

3. 寺ノ尾A遺跡第2次調査（第10図～第13図）

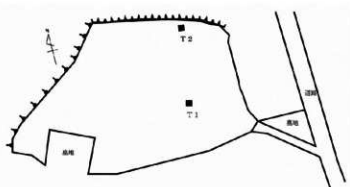
立 地 本遺跡は、松浦市西部の御厨町下登木免に位置している。標高約80～90m前後の台地上に立地し、遺跡の中心部を市道中野寺ノ尾線が、南側には市道横久保白岳線が走っている。本遺跡周辺の南側に寺ノ尾B遺跡、寺ノ尾C遺跡が位置している。第1次調査は平成26年度に実施されており、黒曜石剥片や土師器片等が出土している。

調 査 12月3日付けにて太陽光発電設備設置工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、翌平成31年の1月21日から1月22日にかけて確認調査を実施した。2m×2mの調査区を2カ所設定し（第11図）、人力掘削による掘り下げを行った。調査面積は計8㎡である。

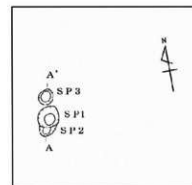


第10図 寺ノ尾A遺跡範囲及び調査箇所位置図
(1/10,000)

検出遺構 T1では、表土を剥がすと地山風化層である褐色土が堆積していたが、T2では表土下に炭化粒、焼土粒を含む暗褐色土が堆積していた。また、T1ではⅡ層上面にてピットを3基検出している（第12図）。SP1は長軸26cm、短軸23cm、深さ約25cmを測る。SP2はSP1に切られており、径16cm、深さ約24cmを測る。SP3は長軸18cm、短軸15cm、深さ約19cmを測る。



第11図 調査区位置図（1/1,200）

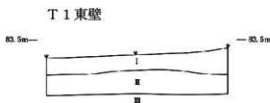


SP土層説明

SP1～3の覆土は共通する。

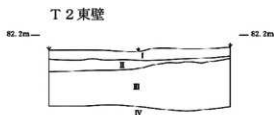
10YR 3/4 暗褐色土。炭化粒、焼土粒を含む。

第12図 T1平面図（1/40）及びSP土層断面図（1/20）



T1土層説明

- I：表土。10YR 2/3 黒褐色土。
炭化粒、焼土粒を含む。
- II：7.5YR 4/6 褐色土。
玄武岩の小礫を含む。
- III：地山。5YR 4/8 赤褐色土。
人頭大の玄武岩礫を含む。



T2土層説明

- I：表土。10YR 2/3 黒褐色土。
炭化粒、焼土粒を含む。
- II：10YR 3/4 暗褐色土。炭化粒、
焼土粒を含む。
- III：7.5YR 4/6 褐色土。玄武岩の小礫
を含む。
- IV：地山。5YR 4/8 赤褐色土。

第13図 2次調査土層断面図（1/40）

出土遺物 遺物は、両調査区の表土より近現代の陶磁器片が出土したのみであった。

表3 平成30年度確認調査出土遺物観察表

青島遺跡第4次調査

図版番号	挿図番号	出土層位	種別	器種	部位	法量 口径・器高・底径	胎土	色調	備考
9	1	表採	黒曜石	台形石器	完形	長2.9cm、厚0.5cm	—	—	表面摩滅する

表4 平成30年度確認調査出土遺物一覧表

大堤遺跡第2次調査

調査区	遺構名/出土層位	出土遺物
T 1	第Ⅰ層	近世陶磁器、黒曜石剥片
	第Ⅱ層	黒曜石剥片
	S K 1	黒曜石剥片
—	表採	黒曜石剥片

青島遺跡第4次調査

調査区	遺構名/出土層位	出土遺物
T 2	第Ⅰ層	近世陶磁器
T 3	第Ⅰ層	近世陶磁器、黒曜石剥片
T 4	第Ⅰ層	近世陶磁器、黒曜石原石
	第Ⅱ層	近世陶磁器
T 5	第Ⅰ層	黒曜石剥片
	第Ⅱ層	黒曜石剥片
T 6	第Ⅰ層	黒曜石剥片
T 9	第Ⅰ層	近世陶磁器、黒曜石剥片
—	表採	近世陶磁器、黒曜石剥片、台形石器

表5 平成30年度確認調査検出遺構一覧表

図版番号	遺跡名	遺構名	形状	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
5	大堤遺跡	S K 1	楕円形	120×95	20	単層。黒曜石剥片出土。
12	寺ノ尾A遺跡	S P 1	円形	26×23	25	S P 2を切る。出土遺物なし。
		S P 2	—	16	24	S P 1に切られる。出土遺物なし。
		S P 3	円形	18×15	19	出土遺物なし。

第Ⅳ章 平成31年度（令和元年度）確認・試掘調査の概要

ここでは、平成31年度（令和元年度）に確認調査を実施した鷹島海底遺跡について概説する。

1. 鷹島海底遺跡（第14図～第15図）

立 地 鷹島海底遺跡は鷹島南岸に位置している（第14図）。日本史上重要な事件である蒙古襲来に係る古戦場跡である。これまで40年にわたる水中考古学手法による発掘調査が行われており、『蒙古襲来絵詞』に描かれる「てつほう」や刀剣、矢束、鉄製冑などの武器・武具類、褐釉陶器や青磁碗などの陶磁器類、碇石や船体の一部と考えられる木材などが出土している。平成23年には琉球大学の研究チームが水深20～25mの地点で「1号沈没船」を、平成27年には水深15mの地点で「2号沈没船」を確認している。これらの成果を受け、従来、文献・絵画によってしか知られなかった蒙古襲来の様相を具体的に明らかにしたとして、平成24年3月27日に鷹島海底遺跡内の384,073.61㎡が鷹島神崎遺跡として、海底遺跡では国内初となる国史跡に指定されている。



資料部部分に図面定史跡範囲を示す。

第14図 鷹島海底遺跡範囲及び調査箇所位置図
(1/80,000)

調 査 11月11日付けにて、鷹島南ヶ崎～福島初崎間の海底ケーブル撤去工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、令和2年1月11日から1月12日の2日間で確認調査を実施した。なお、当初は1月7日から1月8日までの予定であったが、時化のため調査を延期している。調査箇所は鷹島東南端の南ヶ崎である（第15図）。海底ケーブルの撤去工事には掘削を伴わず、ケーブル陸上部分を切断した後、作業船にてケーブルを引き上



第15図 海底ケーブル位置図及び周辺海底地形図
(東海大学海洋学部 2011)

げることが取られることから、ケーブル沿いに潜水目視による海底面の遺物の散布状況を確認し、ケーブル付近に遺物を確認した場合のみ位置情報、写真等の記録をとり、引き揚げることにした。調査範囲は、鷹島海底遺跡の範囲をもとに、汀線より沖合約200mを確認することとした。

調査にあたっては、國富株式会社に業務委託した。調査は、海底ケーブル沿いにメジャーを200m張り、終点に目印ブイを立ち上げ、周辺を目視確認及び映像記録を行う、という手順を取った。なお、これまでの調査では、特に岩礁部に遺物が挟まっている状況が確認されていることから、特に沿岸部の岩礁付近を重点的に調査している。

調査結果 調査の結果、タコソボ等は確認した物の、ケーブル周辺には遺物の散布は見られなかった。なお、海底ケーブルは埋設されている訳ではなかったが、部分的に堆積物に埋没しており、ケーブルの所在確認にやや手間取ってしまったことは否めない。今後このような調査が発生した場合、金属探知機の使用も視野に入れるべきかもしれない。

引用・参考文献

東海大学海洋学部 2011『長崎県・伊万里湾海底地形図集 縮尺1/8,000』 p. IV

第V章 令和2年度確認・試掘調査の概要

令和2年度に確認調査を実施した栢ノ木遺跡、中野遺跡、久保園遺跡について概説する。

1. 栢ノ木遺跡第30次調査（第16図～第21図）

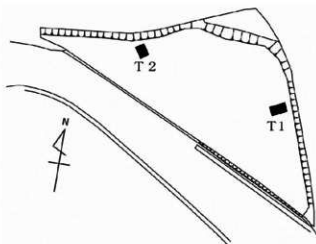
立 地 本遺跡は、市の中心部を流れる志佐川西部の河岸段丘から佐々山川、庄野川流域の沖積平野に広がる水田地帯に位置している。遺跡範囲は東西約600m、南北約900mの広範囲に広がっている（第16図）。志佐川を挟んで対岸には、宮ノ下り遺跡が所在する。栢ノ木遺跡では、これまで29次にわたる調査が実施されており、今回が第30次調査にあたる。当該地周辺も過去に調査がなされており、特に石棺墓内からは、中国後漢時代の青銅鏡（内行花文鏡）などが出土している。



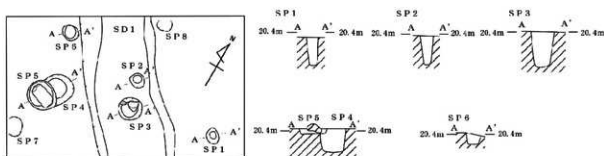
第16図 栢ノ木遺跡範囲及び調査箇所位置図
(1/10,000)

調 査 4月6日付けにて駐車場造成に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、5月11日から5月19日にかけて確認調査を実施した。工事予定地内に任意で2.5m×1.5m（T1）、2m×1.5m（T2）の調査区をそれぞれ1カ所ずつ設定し、人力により掘り下げを行った（第17図）。調査面積は6.75㎡である。

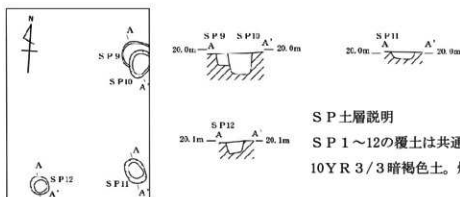
検出遺構 両調査区において、地山面にて遺構を検出した。検出した遺構はそれぞれ、T1でピット8基、溝状遺構1条、T2ではピット4基である（第18図、第19図）。T1では、調査区のほぼ中央、北西－南東方向に溝状遺構（SD1）がはっており、この溝状遺構をピット2基（SP2、3）が切っている。この溝状遺構からは、多量の弥生土器片が出土している。覆



第17図 調査区位置図（1/600）



第18図 T1平面図及びSP土層断面図（1/40）



第19図 T2平面図及びSP土層断面図（1/40）

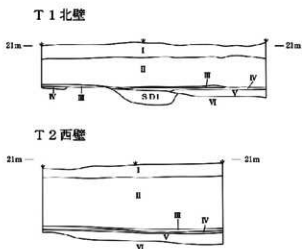
SP土層説明

SP 1～12の覆土は共通する。

10YR 3/3 暗褐色土。焼土粒、炭化粒を含む。

土は単層であった。T2では、SP 9～12の4基のピットを検出している。ピットの覆土はT1、T2とも同じであった。

層序は両調査区とも共通しており、計5枚の土層の堆積を確認した（第20図）。ただし、T1では第Ⅲ層～第Ⅴ層の堆積は限定的であった。



土層説明

I：現代の耕作土。10YR 4/2 灰黄褐色土。

II：10YR 5/4 にぶい黄褐色土。褐色土ブロック、炭化粒、焼土粒を含む。

III：10YR 5/4 にぶい黄褐色土。堆積浅い。

IV：10YR 4/4 褐色土。堆積浅い。

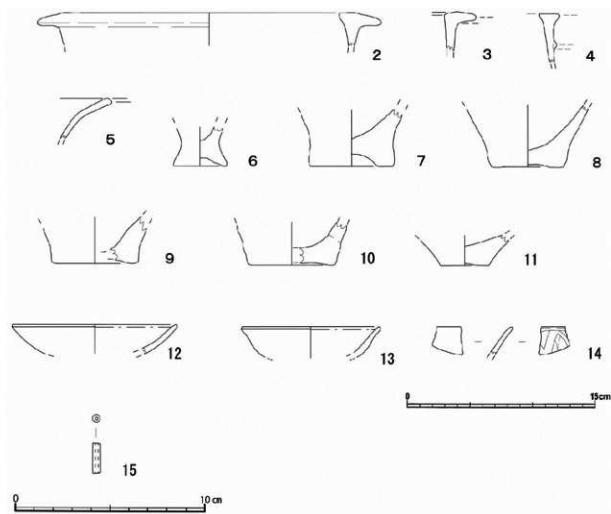
V：10YR 5/4 にぶい黄褐色土。炭化粒、焼土粒を含む。やや砂が混じる。

VI：地山。10YR 4/6 褐色土。

SD 1：10YR 3/3 暗褐色土。褐色土ブロック、炭化粒、焼土粒を含む。

第20図 30次調査土層断面図（1/40）

出土遺物 出土した遺物は約580点を数える。弥生土器、土師器、貿易陶磁器や黒曜石剥片、安山岩剥片などが出土した。特にT1のSD1からは230点余りの遺物が出土している。しかしながら、弥生土器などは特に小片が多く、図示できたのは以下の14点のみである。2～4は弥生土器の口縁部である。2は復元口径27.2cmを測る。甕形土器かと思われる。4は口縁下に突帯を付す。5も弥生土器の口縁部である。口縁端部を四角く納めており、広口壺の口縁の可能性がある。6は脚台付甕の底部とみられるが、底径4.2cmとかなり小さい。ミニチュア品と考えられる資料である。7～11は弥生土器の底部である。7は上げ底状、8～10は低い上げ底状を呈し、底部中央は接地しない。土器はいずれも器表面が摩滅しており、調整が判別しづらい。12、13は白磁の口禿げ皿である。12は復元口径13cm、13は復元口径10.8cmを測る。両者とも大宰府編年皿IX-1c類に相当する。14は龍泉窯系青磁鎗蓮弁文碗である。15は完形の管玉である。SD1より出土した。全長1.6cmを測る。表面が風化により白色がかっている。



第21図 30次調査出土遺物（15のみ1/2、ほかは1/3）

2. 中野遺跡第1次調査（第22図～第27図）

立 地 本遺跡は、松浦市西部の御厨町中野免の標高50m前後の台地上に位置している。遺跡の北側600m程には御厨港が位置している。これまで発掘調査は実施されておらず、今回が初の調査となった。

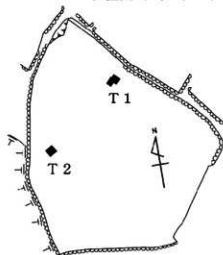
調 査 6月18日付けにて太陽光発電設備設置工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、7月9日から7月16日にかけて確認調査を実施した。工事予定地内に任意で2m×2mの調査区を2カ所設定し（第23図）、人力による掘削を行った。ただし、T1においては調査区端にて遺構を検出したため、調査区を拡張し、最終的に調査面積は9.8㎡となった。

検出遺構 T1及びT2の両調査区で遺構を検出した（第24・25図）。検出した遺構は、T1で土坑1基、ピット2基、T2で溝状遺構1条、ピット1基である。いずれも地山面にて検出した。SK1はやや歪な円形を呈しており、SP1はSP2を切っている。SK1及びSP1、SP2の覆土は同じであった。

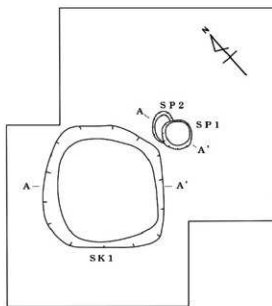
T2ではほぼ東西方向に溝状遺構（SD1）を検出



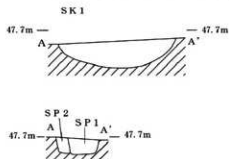
第22図 中野遺跡範囲及び調査箇所位置図（1/10,000）



第23図 調査区位置図（1/1,000）



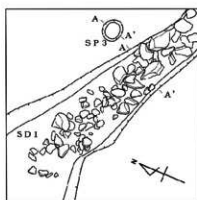
第24図 T1平面図及び遺構土層断面図（1/40）



遺構土層説明

SK1、SP1、2とも共通する。

7.5YR 3/4 暗褐色土。炭化粒、焼土粒を含む。



SD1土層説明

i : 5 YR 3/6 暗赤褐色土。炭化粒、焼土粒を含む。

ii : 7.5 YR 4/4 褐色土。



SP3土層説明

10 YR 3/4 暗褐色土。炭化粒、焼土粒を含む。

第25図 T2平面図及び遺構土層断面図 (1/40)

した。覆土は2層に分かれている。このSDの底面にて玄武岩礫が敷き詰められたような状態で検出している。SDの第II層を取り除くと水が流れていたことから、排水施設としてもうけられたものと考えられる。SDからは遺物が出土していないが、他の遺構からは近世陶磁器が出土していることから、これらの遺構はいずれも近世に属するものと考えられる。

両調査区とも層序は同じであり、表土、第II層を剥がすと玄武岩風下層である褐色土に到達した。

T1南壁



T2北壁



土層説明

I : 表土。現代の耕作土。10 YR 3/4 暗褐色土。

II : 7.5 YR 3/4 暗褐色土。炭化粒、焼土粒を含む。

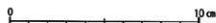
III : 地山。7.5 YR 6/8 橙。

第26図 1次調査土層断面図 (1/40)

出土遺物 遺構からは近世陶磁器や縄文土器片、黒曜石剥片等が出土しているが、いずれも小片であり、図示はできなかった。図示できたのは、16の1点のみである。16は表採品の黒曜石製の石鏃である。先端部分を欠いており、残存長1.2cmを測る。



16



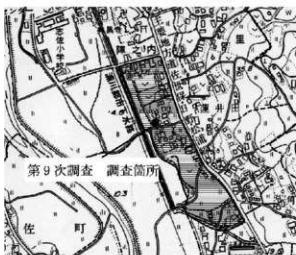
第27図 1次調査出土遺物 (1/2)

3. 久保園遺跡第9次調査（第28図～第31図）

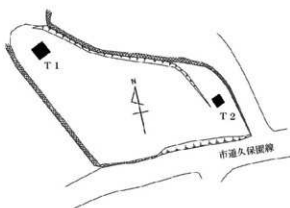
立 地 本遺跡は、松浦市の中心部を流れる志佐川東岸の河岸段丘上に位置している。これまで8次にわたる調査が実施されており、弥生中期を中心とした集落跡及び墓域、中世の集落跡が確認されている。北側には中世の陣ノ内城跡が、南側には中世の集落跡である宮ノ下り遺跡が位置している。

調 査 9月25日付けにて個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、10月26日から11月4日にかけて調査を実施した。工事予定地内に任意で2m×2m（T1）、1.5m×1.5m（T2）の調査区を設定し、人力による掘り下げを行った。調査面積は6.25㎡である。

検出遺構 両調査区とも遺構及び遺物包含層は確認できなかった。対象地は後世の造成を受けており、T1は造成土が厚く堆積していた。一方のT2の堆積は浅く、T1で見られた造成土は確認できなかった。



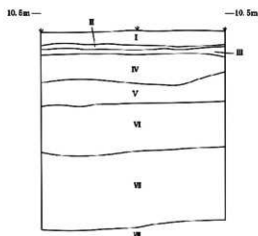
第28図 久保園遺跡範囲及び調査箇所位置図
(1/10,000)



第29図 調査区位置図 (1/600)

出土遺物 出土遺物は、土師質土器や土師器、貿易陶磁器、近世陶磁器などが出土したが、図示可能なものは3点のみであった（第31図）。17は淡黄色を呈する土師質土器である。残存部位から判断するに盤の可能性がある。残存高3.6cmを測る。18は李朝系の青磁である。内面見込み及び高台畳付に目跡が残る。釉は非常に薄く、胎土に含まれる白色粒が透けて見えている。高台内部及び畳付にも施釉される。復元底径5.2cmを測る。19は龍泉窯系青磁の蓮弁文碗である。残存高は2cmを測る。いずれもT1より出土しており、17、18は第Ⅲ層、19は第Ⅳ層より出土している。

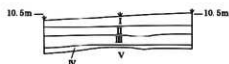
T 1 北壁



T 1 土層説明

- I : 表土。10YR 3/4 暗褐色土。
- II : 7.5YR 3/4 暗褐色土。堆積浅い。
- III : 10YR 2/3 黒褐色土。玄武岩の小礫及び明褐色土ブロックを含む。
- IV : 10YR 4/4 褐色土。黒褐色土ブロック、明褐色土ブロックを含む。
- V : 10YR 3/4 暗褐色土。褐色～明褐色土ブロック、拳大の玄武岩礫を含む。
- VI : 10YR 4/3 にぶい黄褐色土。玄武岩の小礫を含む。
- VII : 10YR 4/3 にぶい黄褐色土。拳大の玄武岩礫を含む。
- VIII : 地山。7.5YR 5/6 明褐色土。

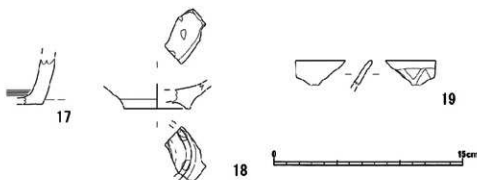
T 2 北壁



T 2 土層説明

- I : 表土。10YR 2/2 黒褐色土。
- II : 10YR 3/4 暗褐色土。玄武岩の小礫を含む。
- III : 7.5YR 3/4 暗褐色土。玄武岩小礫を含む。
- IV : 10YR 2/3 黒褐色土。T 1 のIII層に同じ。
- V : 地山。7.5YR 4/6 褐色土。

第30図 9次調査土層断面図 (1/40)



第31図 9次調査出土遺物 (1/3)

表6 令和2年度確認調査出土遺物観察表

栢ノ木遺跡36次調査

図版番号	探検番号	出土調査区	出土層位	種別	器種	部位	法量 口径・器高・底径	胎土	色調	焼成	備考
21	2	T 1	SD1	弥生土器	甕?	口縁部	復元口径27.2cm	白粒、雲母粒	7.5YR7/3にぶい様	良好	器表面摩滅する。
	3			弥生土器	甕?	口縁部	残存高3.1cm	白粒、雲母粒	外面5YR6/6様 内面7.5YR4/2灰褐色	良好	器表面摩滅する。
	4			弥生土器	?	口縁部	残存高3.8cm	白粒、褐色粒、雲母粒	外面7.5YR6/4にぶい様 内面5YR5/6明茶褐色	良好	器表面摩滅する。 変形あり。
	5			弥生土器	式口蓋?	口縁部	残存高3.2cm	白粒、褐色粒	7.5YR7/6様	良好	器表面摩滅する。
	6			弥生土器	脚台付甕?	脚部～底部	底径4.2cm	白粒、褐色粒、雲母粒	5YR6/6様	良好	ミニチュア品か。
	7	T 2	II層	弥生土器	?	底部	底径6.5cm	白粒、褐色粒	7.5YR6/8様	良好	上げ底状を呈する。
	8			弥生土器	?	底部	復元底径6.6cm	白粒、雲母粒	外面2.5YR5/6明赤褐色 内面7.5YR5/4にぶい様	良好	やや上げ底気味。 器表面摩滅する。
	9			弥生土器	?	底部	復元底径6.8cm	白粒、褐色粒	外面2.5YR6/6様 内面5YR5/2赤褐色	良好	器表面摩滅する。
	10			弥生土器	?	底部	復元底径6.8cm	白粒、褐色粒、雲母粒	7.5YR6/8様	良好	やや上げ底気味。 器表面摩滅する。
	11			弥生土器	鉢?	底部	復元底径3.8cm	白粒、褐色粒	外面7.5YR5/6明褐色 内面5YR6/8様	良好	器表面摩滅する。
	12	T 2	I層	白磁	口先付皿	口縁～体部	復元口径13cm	緻密、黒色粒、雲母粒	7.5Y7/1灰白色	良好	皿底-1:縦相当
	13			白磁	口先付皿	口縁～体部	復元口径10.8cm	緻密、黒色粒	7.5YR/1灰白色	良好	皿底-1:縦相当
	14			V層	青磁	碗	残存高2.2cm	緻密、7.5YR/1灰白色	10Y6/2オリーブ灰色	良好	龍泉系青磁目録相当
	15	T 1	SD1	石製品	管玉	光面	長1.6cm		7.5YR7/1明緑灰色		軟二製か

中野遺跡1次調査

図版番号	探検番号	出土調査区	出土層位	種別	器種	部位	法量 口径・器高・底径	胎土	色調	備考
27	16	—	表採	黒曜石	石鏃	—	残存長1.2cm	—	—	先端欠失する。

久保田遺跡9次調査

図版番号	探検番号	出土調査区	出土層位	種別	器種	部位	法量 口径・器高・底径	胎土	色調	焼成	備考
31	17	T 1	II層	土師系土器	甕?	体部下位	残存高3.6cm	精緻、白粒含み	2.5YR3/3淡茶色	良好	甕?底部深い。
	18			青磁	皿?碗?	底部	復元底径5.2cm	緻密、白色粒 5Y7/1灰白色	5Y5/2灰オリーブ色	良好	見込み、器付に目録 が残る。土師系か。
	19		IV層	青磁	碗	口縁部	残存高2cm	緻密、黒色粒 5Y7/1灰白色	7.5Y6/2灰オリーブ色	良好	龍泉系青磁目録相当

表7 令和2年度確認調査出土遺物一覧表

栢ノ木遺跡第30次調査

調査区	遺構名/出土層位	出土遺物
T 1	第Ⅰ層	須恵器、安山岩剥片
	第Ⅱ層	黒曜石剥片、安山岩剥片
	第Ⅴ層	弥生土器片、黒曜石剥片、安山岩剥片、焼土塊
	S P 1	弥生土器片
	S P 2	弥生土器片、土師器片、焼土塊
	S P 3	弥生土器片、焼土塊、黒曜石剥片
	S P 4	弥生土器片、安山岩剥片
	S P 5	土器屑片
T 2	S D 1	弥生土器片、管玉、黒曜石剥片、安山岩剥片、焼土塊
	第Ⅰ層	弥生土器片、白磁口禿げ皿、黒曜石剥片
	第Ⅱ層	近世陶磁器、備前系陶器指跡、白磁口禿げ皿、弥生土器片、安山岩剥片、安山岩原石、焼土塊
	第Ⅴ層	龍泉窯系青磁、弥生土器片、黒曜石剥片、安山岩剥片、焼土塊
	S P 9	弥生土器片
	S P 10	弥生土器片
	S P 11	弥生土器片

中野遺跡1次調査

調査区	遺構名/出土層位	出土遺物
T 1	第Ⅰ層	近世陶磁器、黒曜石剥片
	第Ⅱ層	近世陶磁器、縄文土器片、黒曜石剥片
	S P 1	近世陶磁器
	S P 2	近世陶磁器
	S K 1	近世陶磁器、縄文土器片、黒曜石剥片、黒曜石原石
T 2	第Ⅰ層	近世陶磁器、安山岩剥片
	第Ⅱ層	近世陶磁器、黒曜石剥片
一	表採	黒曜石製石鏃、黒曜石剥片、安山岩剥片

久保園遺跡9次調査

調査区	遺構名/出土層位	出土遺物
T 1	第Ⅰ層	近世陶磁器
	第Ⅲ層	近世陶磁器、李朝系青磁、土師器片、土師質土器、黒曜石剥片
	第Ⅳ層	近世陶磁器、龍泉窯系青磁
	第Ⅴ層	近世陶磁器、白磁
	第Ⅵ層	近世陶磁器
	第Ⅶ層	近世陶磁器
T 2	第Ⅱ層	近世陶磁器、龍泉窯系青磁、白磁、土師器、黒曜石剥片
	第Ⅲ層	近世陶磁器

表 8 令和 2 年度確認調査検出遺構一覧表

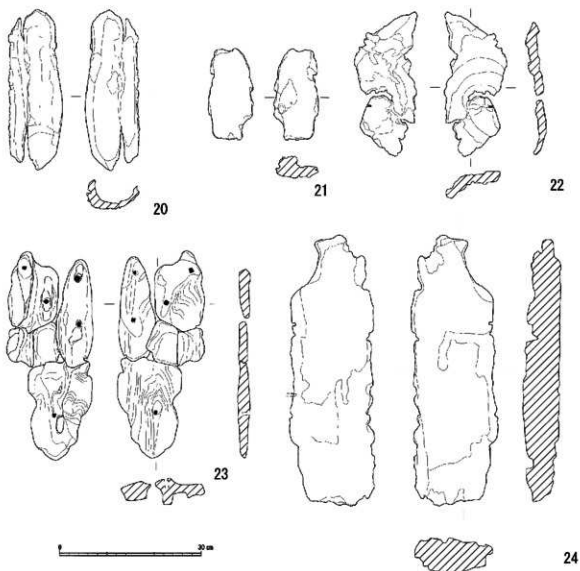
図版番号	遺跡名	遺構名	形状	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
18	栢ノ木遺跡	S D 1	—	—	15	S P 2、S P 3 に切られる。
		S P 1	楕円形	17×13	29	
		S P 2	円形	16×14	30	S D 1 を切る。
		S P 3	円形	25×23	38	S D 1 を切る。
		S P 4	—	31	25	S P 5 に切られる。
		S P 5	円形	32×29	6	S P 4 を切る。
		S P 6	円形	16×16	12	
		S P 7	—	20	—	調査区端にて検出したため未掘。
19	栢ノ木遺跡	S P 8	—	16	—	調査区端にて検出したため未掘。
		S P 9	—	28	12	S P 10 に切られる。
		S P 10	楕円形	29×23	22	S P 9 を切る。
		S P 11	楕円形	26×20	8	
24	中野遺跡	S P 12	円形	19×19	12	出土遺物なし。
		S K 1	円形	113×114	24	
		S P 1	円形	30×29	15	S P 2 を切る
25	中野遺跡	S P 2	—	25	14	S P 1 に切られる。
		S P 3	円形	23×20	13	
		S D 1	—	—	22	排水路か。

第Ⅵ章 鷹島海底遺跡出土木製品の再調査について

1. はじめに

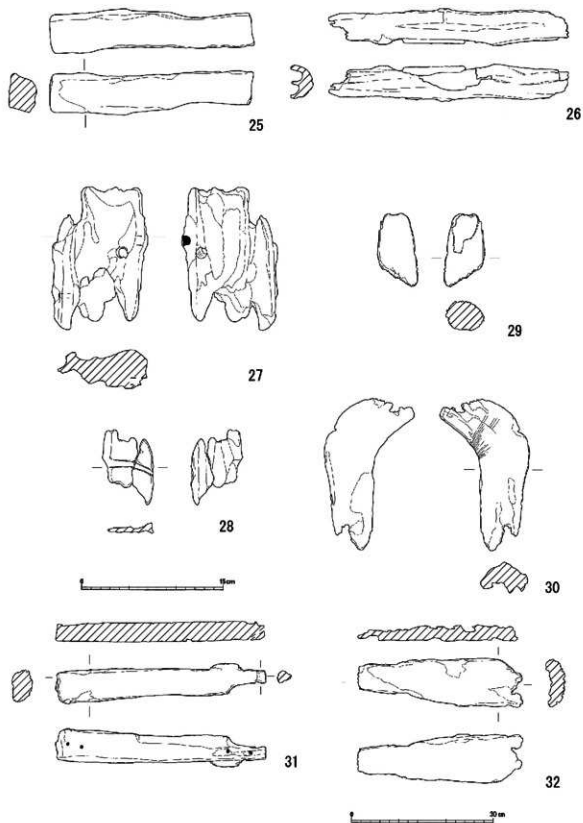
ここでは、平成14年度の鷹島海底遺跡緊急調査で出土した遺物のうち、未報告であった木製品を報告する。ただし、紙幅の都合もあり、実測、保存処理が終了しているものを中心となっていることをあらかじめ断っておきたい。また、これら木製品は、海中環境に置かれていたことでフナクイムシなどによる蚕食を受け、本来の形状を保っておらず、用途等が不明なものが多い。樹種や遺物名については『松浦市鷹島海底遺跡 総集編』（松浦市教育委員会2011）を参照しているため、そちらも参考にされたい。なお、図中に黒の網掛けで示した部分は全て釘痕である。また、ここで報告する木製品は全てトレハロースを用いた保存処理を行っている。

20は木製品と報告している遺物である。樹種はクスギ節で残存長34.2cm、幅11.5cm、厚さ6.2cmを測る。全体的に炭化しており、樹心部は遺存していない。元からこのような形状であったのかは不明である。21は木製品と報告している遺物である。樹種はクスノキで、残存長19.5cm、幅9.7cm、厚さ4.6cmを測る。全体的に蚕食を受けている。22は木製品と報告している遺物である。樹種はクスギ節で、全体的に炭化している。残存長30.7cm、幅13.3cm、厚さ5.6cmを測る。23は木製品と報告している遺物である。樹種はクスノキで、残存長は44.4cm、幅17.9cm、厚さ5.6cmを測る。5カ所の釘痕を確認でき、いずれも貫通している。釘痕のサイズは様ではない。24は木製品と報告している遺物である。樹種はクスノキで、残存長57.8cm、幅18.1cm、厚さ7.7cmを測る。側面に1カ所、未貫通の釘痕を確認できる。釘痕のサイズは0.5cm×0.5cmと木材のサイズに比べかなり小さい。25は木製品と報告している遺物である。樹種は*Dalbergia sp.*で、残存長43.5cm、幅9.2cm、厚さ5.9cmを測る。26は木製品と報告している遺物である。樹種はクスギ節で、残存長33.4cm、幅6cm、厚さ3.1cmを測る。樹皮が遺存しており、表面が炭化している。27は木製品と報告している遺物である。樹種はニレ属で、残存長13.9cm、幅9.9cm、厚さ4.4cmを測る。側面に釘痕が2カ所確認できる。28は27と同一個体と考えられるが、現状では接合できない。樹種は同じニレ属で、残存長7.2cm、幅5cm、厚さ1.1cmを測る。釘痕が確認できる。29は木製品と報告している遺物である。樹種はクスギ節で、残存長15.4cm、幅8.6cm、厚さ6.2cmを測る。全体的に炭化している。30は木製品と報告している遺物である。樹種は*Dalbergia sp.*で、残存長32.4cm、幅19.1cm、厚さ6.6cmを測る。31は木製品と報告している遺物である。樹種はシイ属で、残存長89.4cm、幅16.8cm、厚さ8.6cmを測る。釘痕が6カ所確認できる。32は木製品と報告している遺物である。樹種はクスノキで、残存長70.5cm、幅20.6cm、厚さ8.3cmを測る。33は船材（隔壁梁材）と報告している遺物である。樹種はクスノキ科で、残存長46.3cm、幅10cm、厚さ9.2cmを測る。釘痕が8カ所確認できる。釘痕のサイズはいずれもほぼ0.8cm×0.8cmと同規格の釘を使用しているようである。34は木製品と報告されている遺物である。樹種はクスノキ科

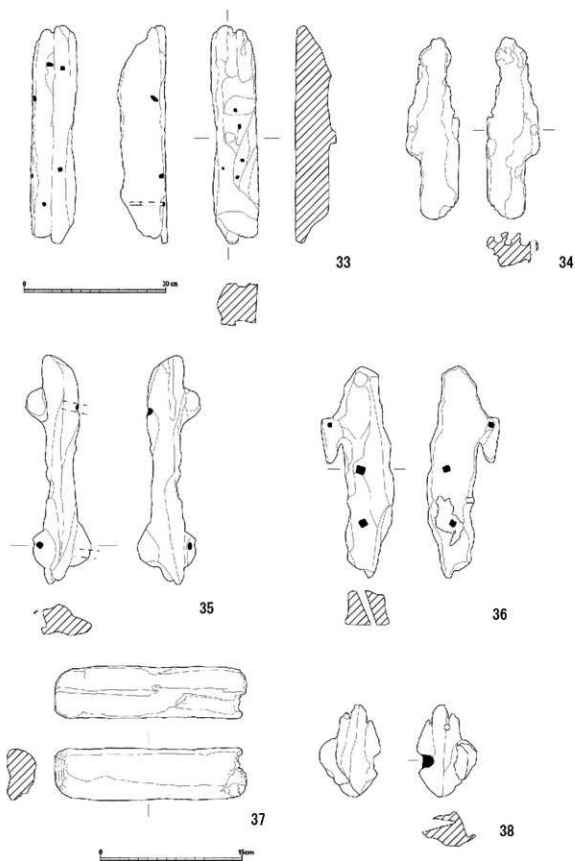


第32図 平成14年度緊急調査出土木製品①(1/8)

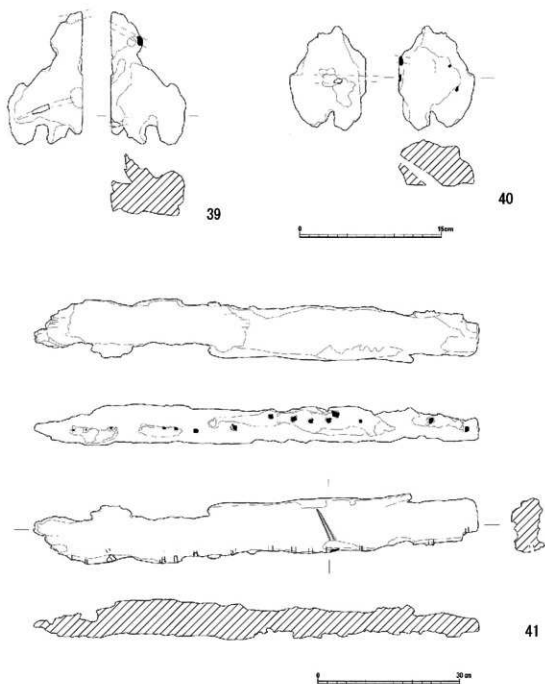
で、残存長19.3cm、幅5.6cm、厚さ3.6cmを測る。蚕食痕が目立つ。**35**は船材小破片と報告している遺物である。樹種はクスノキ科で、残存長24.6cm、幅6cm、厚さ3.3cmを測る。釘痕が2カ所確認でき、図上端の方は釘部分が錆により膨らんでいる。**36**は木製品と報告している遺物である。樹種は*Terminalia Catappa*で、残存長22.5cm、幅7.1cm、厚さ3.7cmを測る。釘痕は4カ所確認でき、うち3カ所は木材を貫通しているが、もう1カ所は木材側面に釘が打たれていた痕跡を確認できるのみである。図右下側端部の釘痕の周囲に釘に由来すると思われる錆が付着している。**37**は木製品と報告している遺物である。残存長20.3cm、幅5.6cm、厚さ3.1cmを測る。**38**は木製品と報告している遺物で、樹種はクスノキである。残存長9.9cm、幅6.3cm、厚さ3.9cmを測る。約1.2cm×1.2cmの釘痕が確認できる。釘に由来すると思われる錆が付着している。



第33図 平成14年度緊急調査出土木製品② (27、28のみ1/4、他は1/8)

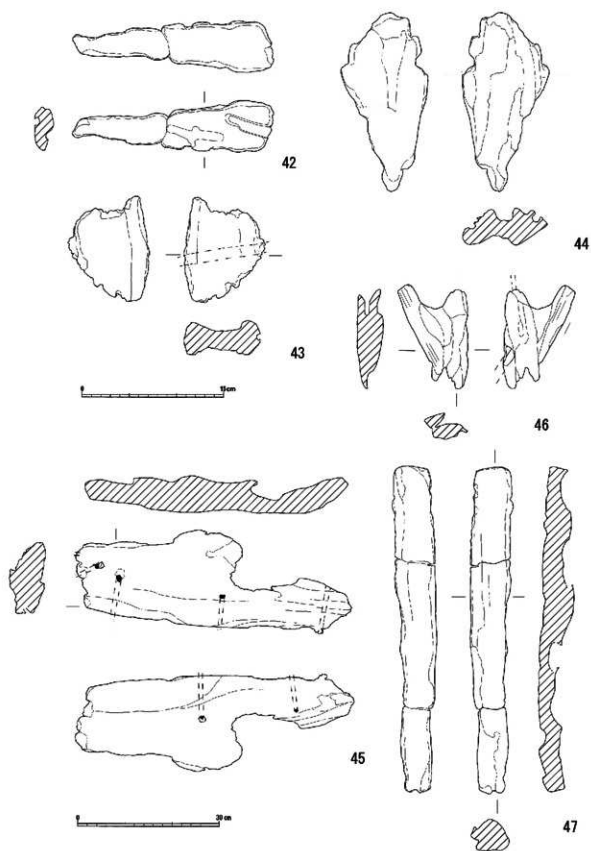


第34図 平成14年度緊急調査出土木製品③ (33のみ 1/8、他は 1/4)

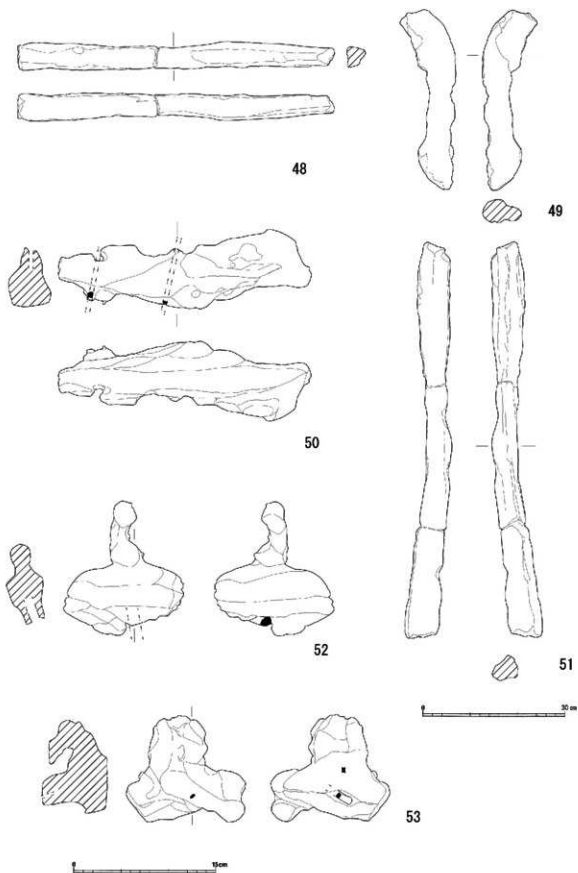


第35図 平成14年度緊急調査出土木製品④ (41のみ1/8、他は1/4)

39は木製品と報告している遺物である。樹種は*Terminalia Catappa*で、残存長14cm、幅7.9cm、厚さ6.5cmを測る。0.5cm×0.5cmの釘痕が4カ所確認できる。40は木製品と報告している遺物である。樹種は*Terminalia Catappa*で、残存長11cm、幅8cm、厚さ4.9cmを測る。釘痕が3カ所確認でき、うち、断面図に現れている1カ所が貫通している。41は木製品と報告している遺物である。樹種はクスノキで、残存長94.8cm、幅14.2cm、厚さ8.6cmを測る。釘痕が16カ所確認でき、



第36図 平成14年度緊急調査出土木製品⑤ (45、47のみ 1/8、他は 1/4)



第37図 平成14年度緊急調査出土木製品⑥ (48、49、51は1/8、他は1/4)

うち1カ所は木材表面に釘が斜めに打たれた痕跡が観察できる。この釘の長さは約11cmである。**42**は木製品と報告している。樹種はクスノキで、残存長21.3cm、幅5.5cm、厚さ2cmを測る。**43**は木製品と報告している。樹種はクスノキで、残存長11.1cm、幅8.6cm、厚さ3.6cmを測る。貫通している釘を確認できる。**44**は木製品と報告している。樹種はクスノキで、残存長18.9cm、幅9.2cm、厚さ3.9cmを測る。**45**は木製品と報告している。樹種はクスノキで、残存長59.3cm、幅21.4cm、厚さ8.2cmを測る。釘痕は7カ所で、縦方向だけでなく、横方向にも打たれていることが確認できる。側面の一方が平坦になっていることから、別の部材と釘で接合されていたようである。**46**は木製品と報告している。樹種はマツ属単維管束亜属で、残存長9.7cm、幅5.8cm、厚さ2.7cmを測る。釘痕が2カ所確認できる。**47**は木製品と報告している遺物である。樹種は*Dalbergia sp.*で残存長69.7cm、幅9.2cm、厚さ7.4cmを測る。**48**は木製品と報告している遺物である。樹種は*Dalbergia sp.*で残存長67cm、幅5.8cm、厚さ3.9cmを測る。**49**は木製品と報告している遺物である。樹種は*Dalbergia sp.*で残存長38.3cm、幅11.7cm、厚さ5cmを測る。**50**は木製品と報告している遺物である。樹種はクスノキで、残存長26cm、幅7cm、厚さ5.4cmを測る。釘痕が2カ所確認でき、いずれも貫通している。また、釘由来と考えられる錆が付着している。**51**は木製品と報告している遺物である。樹種は*Dalbergia sp.*で、残存長84.1cm、幅10.3cm、厚さ5.4cmを測る。**52**は木製品と報告している遺物である。樹種はクスノキで、残存長14.1cm、幅12.2cm、厚さ3.5cmを測る。ほぼ中心を釘が貫通しており、釘が飛び出している。**53**は木製品と報告している。樹種はクスノキ科で、残存長12.3cm、幅10.8cm、厚さ5.5cmを測る。釘痕が2カ所確認できる。

2. おわりに

鷹島海底遺跡の形成要因、即ち弘安4年(1281年)の弘安の役において、元軍の船団の多くが鷹島沖で暴風雨により沈没したことからすれば、これら木製品は船材の一部であったものと考えられる。しかし、前述のとおり、鷹島海底遺跡出土木製品は海底面に埋没するまでの間にフナクイムシ等による生物劣化を受けており、本来の形状や使用用途が分からない物が多い。今回報告した物も残念ながらそのほとんどが本来の形状や用途は不明である。なお、樹種についてはクスノキ(科)、クスノギ節、ニレ属、シイ属、*Dalbergia sp.*、*Terminalia Catappa*、マツ属単維管束亜属があるが、このうち、*Dalbergia sp.*、*Terminalia Catappa*は日本に分布せず、中国、東南アジアに分布していることを述べておく。

引用・参考文献

松浦市教育委員会 2011『松浦市鷹島海底遺跡 総集編』松浦市文化財調査報告書 第4集

表9 平成14年度緊急調査出土木製品一覧表

KZK02 (平成14年度) 緊急調査出土木製品

図版 番号	榫 図 番号	遺物 番号	種別	遺物名	樹種	法量 (cm)			備考
						長さ	幅	厚さ	
32	20	29	木製品	木製品	クスギ節	34.2	11.5	6.2	炭化する
	21	31	木製品	木製品	クスノキ	19.5	9.7	4.6	
	22	75	木製品	木製品	クスギ節	30.7	13.3	5.6	炭化する
	23	185	木製品	木製品	クスノキ	44.4	17.9	5.6	5点接合
	24	341	木製品	木製品	クスノキ	57.8	18.1	7.7	
33	25	356	木製品	木製品	<i>Dalbergia sp.</i>	43.5	9.2	5.9	
	26	466	木製品	木製品	クスギ節	33.4	6.0	3.1	樹皮遺存。炭化
	27	469	木製品	木製品	ニレ属	13.9	9.9	4.4	28と同一固体か
	28	469	木製品	木製品	ニレ属	7.2	5.0	1.1	27と同一固体か
	29	499	木製品	木製品	クスギ節	15.4	8.6	6.2	炭化する
	30	541	木製品	木製品	<i>Dalbergia sp.</i>	32.4	19.1	6.6	
	31	557	木製品	木製品	シイ属	89.4	16.8	8.6	
	32	582	木製品	木製品	クスノキ	70.5	20.6	8.3	
34	33	652	木製品	船材 (隔壁梁材)	クスノキ科	46.3	10.0	9.2	No646に接ぐ
	34	655	木製品	木製品	クスノキ科	19.3	5.6	3.6	No328鉄製品 (石突?) とつながる
	35	790	木製品	船材小破片	クスノキ	24.6	6.0	3.3	
	36	796	木製品	木製品	<i>Terminalia Catappa</i>	22.5	7.1	3.7	
	37	807	木製品	木製品	樹種未同定	20.3	5.6	3.1	
35	38	841	木製品	木製品	クスノキ	9.9	6.3	3.9	
	39	859	木製品	木製品	<i>Terminalia Catappa</i>	14.0	7.9	6.5	
	40	860	木製品	木製品	<i>Terminalia Catappa</i>	11.0	8.0	4.9	
	41	877	木製品	木製品	クスノキ	94.8	14.2	8.6	
	42	889	木製品	木製品	クスノキ	21.3	5.5	2.0	2点接合
36	43	923	木製品	木製品	クスノキ	11.1	8.6	3.6	
	44	924	木製品	木製品	クスノキ	18.9	9.2	3.9	
	45	952	木製品	木製品	クスノキ	59.3	21.4	8.2	
	46	954	木製品	木製品	マツ属単維管束亜属	9.7	5.8	2.7	
	47	957	木製品	木製品	<i>Dalbergia sp.</i>	69.7	9.2	7.4	3点接合
37	48	971	木製品	木製品	<i>Dalbergia sp.</i>	67.0	5.8	3.9	2点接合
	49	983	木製品	木製品	<i>Dalbergia sp.</i>	38.3	11.7	5.0	
	50	1002	木製品	木製品	クスノキ	26.0	7.0	5.4	
	51	1066	木製品	木製品	<i>Dalbergia sp.</i>	84.1	10.3	5.4	3点接合
	52	1212	木製品	木製品	クスノキ	14.1	12.2	3.5	
	53	1295	木製品	木製品	クスノキ科	12.3	10.8	5.5	

圖 版

図版 1



大堤遺跡 2 次調査箇所遠景



大堤遺跡 2 次 T 1 完掘状況（南側から）



大堤遺跡 2 次 T 1 北壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 1 完掘状況（東側から）



青島遺跡 4 次 T 1 西壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 2 完掘状況（東側から）



青島遺跡 4 次 T 2 西壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 3 完掘状況（西側から）

図版 2



青島遺跡 4 次 T 3 東壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 4 完掘状況（南側から）



青島遺跡 4 次 T 4 北壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 5 完掘状況（東側から）



青島遺跡 4 次 T 5 西壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 6 完掘状況（西側から）



青島遺跡 4 次 T 6 東壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 7 完掘状況（東側から）

図版 3



青島遺跡 4 次 T 7 西壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 8 完掘状況（東側から）



青島遺跡 4 次 T 8 西壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 9 完掘状況（東側から）



青島遺跡 4 次 T 9 西壁土層断面



青島遺跡 4 次 T 10 完掘状況（東側から）



青島遺跡 4 次 T 10 西壁土層断面

図版 4



寺ノ尾A遺跡2次T1遺構検出状況(東側から)



寺ノ尾A遺跡2次T1完掘状況(西側から)



寺ノ尾A遺跡2次T1東壁土層断面



寺ノ尾A遺跡2次T2完掘状況(西側から)



寺ノ尾A遺跡2次T2東壁土層断面

図版 5



鷹島南ヶ崎（調査船上より）



鷹島海底遺跡海底ケーブル5m地点



鷹島海底遺跡海底ケーブル15m地点



鷹島海底遺跡海底ケーブル25m地点



鷹島海底遺跡海底ケーブル200m地点



鷹島海底遺跡潜水目視調査状況①



鷹島海底遺跡潜水目視調査状況②



鷹島海底遺跡潜水目視調査状況③

図版 6



栢ノ木遺跡 30 次 T 1 遺構検出状況(西側から)



栢ノ木遺跡30次T 1 完掘状況 (西側から)



栢ノ木遺跡30次T 1 北壁土層断面



栢ノ木遺跡 30 次 T 2 遺構検出状況(西側から)



栢ノ木遺跡30次T 2 完掘状況 (北側から)



栢ノ木遺跡30次T 2 西壁土層断面



中野遺跡 1 次 T 1 遺構検出状況 (西側から)



中野遺跡 1 次 T 1 完掘状況 (西側から)

図版 7



中野遺跡 1 次 T 1 南壁土層断面



中野遺跡 1 次 T 2 遺構検出状況 (西側から)



中野遺跡 1 次 T 2 S D 内礎検出状況



中野遺跡 1 次 T 2 完掘状況 (西側から)



中野遺跡 1 次 T 2 北壁土層断面



久保園遺跡 9 次 T 1 完掘状況 (南側から)

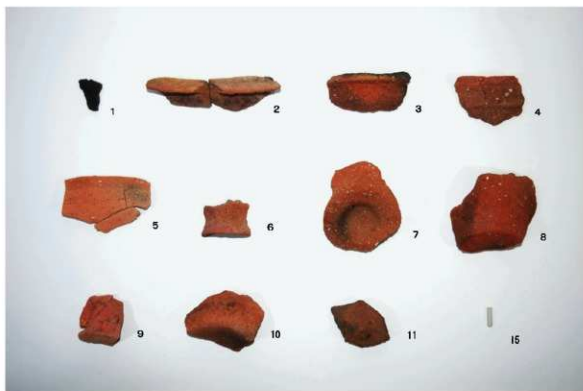


久保園遺跡 9 次 T 2 完掘状況 (南側から)

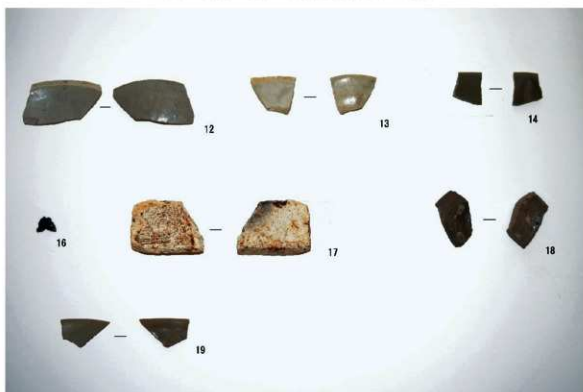


久保園遺跡 9 次 T 2 北壁土層断面

図版 8



平成30年度～令和2年度確認調査出土遺物①



平成30年度～令和2年度確認調査出土遺物②

報告書抄録

ふりがな	まつうらしいせきかくにんちょうさ(6)						
書名	松浦市内遺跡確認調査(6)						
副書名							
巻次							
シリーズ名	松浦市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第11集						
編集者名	早田晴樹						
編集機関	松浦市教育委員会						
所在地	〒859-4598 長崎県松浦市志佐町里免365番地 TEL.0956-72-1111						
	E-mail bunkazai@city.matsuura.lg.jp						
発行年月日	西暦 2021年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' " N	東経 ° ' " E	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おおつうらいせき 大堤遺跡2次	志佐町白浜免828-1	42208 029	33° 20' 44.23"	129° 41' 24.01"	20180710～ 20180712	4.3	アンテナ建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	遺物包含地	縄文	土坑		黒曜石剥片		近世に属する とみられる遺構を確認した。
あしらいせき 青島遺跡4次	星鹿町青島免1183-1ほか	42208 034	33° 24' 35.89"	129° 41' 3.58"	20181112～ 20181118	40	小形風力発電設備 設置工事
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	遺物包含地	旧石器・縄文	黒曜石剥片 近世陶磁器		—		—
てらのお 寺ノ尾A遺跡2次	御厨町上登木免432	42208 071	33° 21' 4.04"	129° 40' 21.29"	20190121～ 20190122	8	太陽光発電設備 設置工事
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	遺物包含地	旧石器・縄文	ピット		—		近世に属する とみられる遺構を確認した。
あかしき 鷹島海底遺跡	鷹島町神崎免1422地先	42208 162	33° 25' 29.20"	129° 47' 24.82"	20200111～ 20200112	800	海底ケーブル撤去 工事
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	遺物包含地	中世	—		—		—
かやのき 柗ノ木遺跡30次	志佐町柗木免25-1	42208 026	33° 19' 32.48"	129° 42' 35.53"	20200511～ 20200519	6.75	駐車場造成
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	遺物包含地	縄文・弥生・中世	ピット、溝状遺構		弥生土器、管玉 白磁、龍泉窯系青磁		—
なかのいせき 中野遺跡	御厨町中野免144	42208 083	33° 21' 33.50"	129° 40' 6.34"	20200709～ 20200716	9.8	太陽光発電設備 設置工事
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	遺物包含地	縄文	ピット、土坑、 溝状遺構		黒曜石剥片、石礫 縄文土器		近世に属する とみられる遺構を確認した。
くぼせいのせき 久保園遺跡9次	志佐町里免239-6	42208 024	33° 20' 3.09"	129° 42' 36.92"	20201026～ 20201104	6.25	個人住宅建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
	遺物包含地	中世	—		土師器、龍泉窯系青 磁、白磁、李朝系青 磁		—

松浦市文化財調査報告書 第11集

松浦市内遺跡確認調査（6）

令和3年3月31日

発行 長崎県松浦市教育委員会
長崎県松浦市志佐町里免365番地

印刷 有限会社 タイセイ印刷
長崎県松浦市志佐町浦免886番地7